

## 国際化学肥料ニュース (2018年1月)

### 肥料業界の2018年1月動態

- \* アメリカは Mosaic 社のフロリダ Plant City 工場の閉鎖に伴い、1月にロシア Phosagro 社から 2 船、モロッコ OCP 社から 4 船、サウジアラビアから 1 船、セネガルから 1 船 合計約 30 万トン DAP を輸入することが決定した。
- \* インドのりん安需要が旺盛で、12 月末現在の DAP 在庫量が 40 万トンしかなく、この 10 年間最低の在庫量であった。しかし、インド政府の肥料補助金政策と小売価格規制政策では、CFR380 ドル/トンを超えると、輸入商社が赤字になる恐れがある。1 月国営の IPL 社と Kribheo 社がサウジアラビアとヨルダンから CFR390 ドル/トンの価格で 10.3 万トン DAP を緊急輸入する。りん安不足を解決するため、インド政府は規制されている小売価格を上げる検討するが、モロッコ OCP 社と第 1 四半期の粗りん酸輸入価格が確定されない限り、現行最高小売価格の変更がないという。
- \* インド NLF 社が昨年 12 月 22 日開札された尿素入札は、最終決定購入量 38.7 万トン、すべてイラン産である。
- \* 新年を過ぎ、塩化加里の国際価格がさらに上昇した。1 月ブラジル向けの CFR 価格が 295 ドル/トン、クリスマス前の 280~285 ドル/トンより 10~15 ドルも上がった。また、ヨーロッパ市場に対してロシア Uralkali 社は CFR270 ユーロ/トンを設定している。東南アジアでは非需要期であるため、価格変動がないが、インドネシアは 1 月に塩化加里の入札があり、落札価格が上がる可能性がある。
- \* 中国税関の最新データによれば、2017 年 11 月の化学肥料輸出量が 8%減の 206 万トン、4.9 億ドル。その内訳は硫安 72 万トン、尿素 36.5 万トン、NP 化成肥料 7 万トン、重過リン酸石灰 8.9 万トン。一方、11 月の化学肥料輸入量 82 万トン、2 億ドル。
- \* IFA (国際肥料工業会) の 2017 年世界加里肥料生産能力調査報告によれば、2017~2021 年大体 30 のプロジェクトが完成し、そのうち新規鉱山 9 か所、残りは拡張・増設である。世界加里肥料生産能力が 2016 年の 5,470 万トン K<sub>2</sub>O から 2021 年に 6,550 万トン K<sub>2</sub>O に増加し、純増加量 1,100 万トン K<sub>2</sub>O であると予測される。そのうち 820 万トンはロシア、カナダ、トルクメニスタン、ベラルーシと中国の新規鉱山、360 万トンは既存鉱山の拡張と生産工程の改善改良による増加分である。また、ドイツ、イギリスとアメリカの老朽した鉱山の閉鎖により 100 万トンの生産能力が除去される。

- \* ドイツ K+S 社がカナダ Saskatchewan 州の Bethune 鉱山から産出した粒状塩化加里を初めてドイツに逆輸入する。1月23日ドイツに到着する予定。Bethune 鉱山は昨年5月完成、6月から正式稼働した。今まで中国やインドに輸出しているが、EUに輸出するのは初めてである。
- \* インドとモロッコ OCP 社との間、2018年第1四半期（1～3月）の粗りん酸価格に関する協議が CFR678 ドル/トンで決着した。去年第4四半期（10～12月）に比べ111ドル/トンの値上げとなる。  
粗りん酸価格の決着を受け、インド国営 IPL 社と IFFCO 社（インド農民肥料組合）は DAP の販売価格を約 24000 ルピー（約 377 ドル）/トンに値上げした。政府の補助金を入れると、DAP は CFR400～410 ドル/トンまでの輸入が可能となる。現在、インド側はサウジアラビアから CFR400 ドル/トンに関する商談をしている。
- \* インドは国内 DAP 小売価格の引き上げを受け、ヨルダン JPMC 社とサウジアラビア SABIC 社から4船12万トン DAP を購入した。CFR 価格 408 ドル/トン、2月納品予定。
- \* 中国税関の速報によれば、2017年12月中国の化学肥料輸出量 225 万トン、そのうち尿素 55 万トン、DAP42 万トン。12月輸入された化学肥料 80 万トン、そのうち塩化加里 59 万トン、NPK 化成肥料 7 万トン。  
また、2017年中国の化学肥料輸出量が 8.9%減の 2548 万トン、金額が 7.1%減の 61.82 億ドル。尿素輸出量が 47.7%減の 465 万トン、DAP 輸出量が 3.6%減の 640 万トン、硫安輸出量が 16.37%増の 584.55 万トン、重過石輸出量が 46.9%増の 100.3 万トン。一方、2017年中国の化学肥料輸入量が 10.3%増の 917 万トン、金額が 2.8%減の 23.3 億ドル。そのうち塩化加里輸入量が 10.5%増の 753.3 万トン、NPK 化成肥料が 2.4%減の 110.5 万トン。
- \* 国際肥料工業会（IFA）の調査報告書によれば、2016年の世界尿素生産量が 1.74 億トン、2015年よりやや減少した。減少分はすべて中国によるもので、2016年中国の尿素生産量が 13%減の 6200 万トン（世界シェア 36%）、中国を除くその他の国の尿素生産量が 10%増の 1.12 億トン、主にロシア、サウジアラビア、イラン、ナイジェリアとパキスタンが増産した。  
また、2016年世界市場の尿素貿易量が 1.7%増の 5,050 万トン、そのうち中国尿素輸出量が 36%減の 890 万トン、輸出シェアの 18%（2015年が 28%）に下がった。中国

以外の尿素輸出量が 16%増の 4,160 万トン、主にイランと中東湾岸地域の輸出が急増した。

IFA の調査報告書によれば 2016~2021 年の 6 年間に世界に 40 本の新規尿素生産装置が完成され、そのうち 10 本は中国にある。ただし、2018 年以降、新たに完成する尿素装置はすべて中国以外にある。

- \* 国際肥料工業会 (IFA) の調査報告書によれば、2016 年世界りん鉱石採掘量が 1%減の 2.01 億トン。最大産出国中国のりん鉱石採掘量が 3.5%減の 8200 万トン、中国を除くほかの国のりん鉱石採掘量が 1%増の 1.19 億トン、主にモロッコとサウジアラビアが増産体制に入り、鉱山の稼働率が 89%まで上げられた。

また、IFA は 2021 年りん鉱石供給量が 2.49 億トンになるだろうと推測する。

- \* インドの化成肥料需要が旺盛で、1 月 12 日インド NFL 社の化成肥料入札で Midgulf 社が CFR330 ドル/トンの価格で 12-32-16 の化成肥料 35,000 トンを契約した。また、同じ価格でインドの Chambal 社にも 7,000 トンを輸出した。消息筋によれば、インド NFL 社は 2 月に再び 12-32-16 の化成肥料に対する入札を行う予定である。

- \* モロッコの OCP 社は低価格攻勢で化成肥料の生産と輸出に力を入れている。2 月にエチオピアに CFR250 ドル/トンの価格で 15-15-15 化成肥料 15 万トンを輸出する予定である。

- \* 中国のアンモニア輸入量が急増した。2016 年以前はアンモニア輸入量が大体 35 万トンであったが、2016 年の輸入量が 46.5 万トン、2017 年の輸入量が 72 万トンに増加した。主な輸入元はインドネシアとサウジアラビア、この 2 カ国で全輸入量の 64%を占める。ほかにトリニダード・トバゴ、エジプト、オマーン、オーストラリア、アメリカからも輸入されている。輸入港は上海港が輸入量の 90%以上で、ほかに南京港と湛江港もある。なお、輸入アンモニアは工業用で、化学肥料には使われていない。

### 大手各社の営業業績

- \* ロシア Acron 社は 2017 年化学肥料生産量が 16%増の 606 万トン、会社設立以来最高記録を立てた。主な要因は 2016 年完成した Veliky Novgorod アンモニア工場が順調に稼働する上、ほかの工場も大きな事故がなく、計画より多くの製品を生産した。2017 年のアンモニア生産量が 18%増の 260 万トン、硝安生産量が 13%増の 198 万トン、尿素生産量が 16%増の 88.2 万トン、尿素硝安液肥 (UAN) 生産量が 16%減の 95 万トン、化成肥料生産量が 18%増の 222 万トン、BB 配合肥料が 900%増の 67.5 万トン。

## 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* 中国新疆ロプノールに新たに加里を含む鹹水層が発見された。地下 1200m までボーリング調査して 200m 以下の深度地層に 14 層鹹水層があり、加里資源量 2.5 億トンと推定される。

## その他

- \* アメリカ Mosaic 社がブラジル Vale 社の肥料事業の買収が完了した。買収金額約 14 億ドル、予測の 25 億ドルに遠く及ばない。主な買収内容は Vale 社が所有するペルー Bayovar リン鉱山、カナダ Kronau 加里鉱山、ブラジル国内ほとんどのリン鉱山と港設備などで、計りん鉱山 5 ヶ所、加里鉱山 1 ヶ所と 4 つの肥料工場である。なお、Vale 社の Cubatao 肥料工場はノルウェーの Yara 社が 2.55 億ドルで買収した。
- \* ノルウェーの Yara 社はインド Tata Chemicals (TCL) 社の尿素事業の買収を完了したと発表した。TCL 社はインド国内に 1 尿素工場があり、年間 70 万トンアンモニア、120 万トン尿素を生産する。買収金額 4.21 億ドル。Yara 社はこれによりインド進出の橋頭堡を確保した。
- \* モロッコの OCP 社はアメリカ IBM 社と共同出資して、アフリカの農業分野にビックデータとインターネット技術を普及させるための合弁企業を作った。合弁企業の名前は TEAL Technique Service とする。
- \* ロシアの Acron 社はブランドの価値向上を目的に国外販売子会社の名称を統一すると発表した。アメリカにある Agronova International 社を Acron USA に、スイスにある Agronova Europe 社を Acron Switzerland に、フランスにある Acron France と合わせて、すべての海外子会社を Acron に統一する。
- \* 今月に PotashCorp と Agrium が合併して誕生した Nutrien 社は持っているイスラエルの ICL 社の株式をすべて株式市場に売却すると発表した。売却は 1 月 23 日に完了する。Nutrien 社が持つ ICL 社の株式は約 14%、売却益が約 7 億ドルと予想される。今回の売却は中国とインド政府が PotashCorp と Agrium の合併を承認する条件として持っているイスラエル ICL 社、ヨルダン APC 社、チリ SQM 社の株式をすべて売却するとの要求に応える行動である。
- \* イスラエルの ICL 社のイギリス子会社 Cleveland Potash 社は 6 月末に所有の Boulby 加里鉱山の塩化加里生産を停止すると発表した。Boulby 加里鉱山はノースヨークシャー州にあり、地下 1400m からシルビンを採掘し、塩化加里と塩化ナトリウムを生産す

る。シルビンの年間採掘量約 100 万トン、イギリス塩化加里生産量の半分を占める。しかし、採掘コストが高い上、採掘可能な資源量も減って、この数年間が赤字続きの状態である。2015 年 11 月に ICI 社が当該鉱山の閉鎖を表明した。

\* カナダの Nutrien 社はブラジルの Agrichem 社を買収することを発表した。Agrichem 社はブラジル最大の液体肥料メーカーで、生物刺激剤も生産している。従業員 135 名、登録された製品 35 種、年間売上高 5500 万ドル、EBITDA（利払い前・税引き前・減価償却前利益）1500 万ドルを超えた。買収金額が不明。

\* 1 月 31 日、中国税関と国家品質検査総局が 2 月 1 日から 94 種類の商品について輸出する際に公定強制検査を免除すると発表した。化学肥料に属する商品は硫酸、磷酸二アンモニウム（DAP）、塩化加里、硫酸亜鉛、硫酸鉄の 4 種類である。

公定強制検査制度は中国独特の法律で、輸出業者は事前に政府認定の検査業者にサンプルを提出し、検査を受け、輸入輸出検査検疫所にその検査結果証明書と契約書、用途説明書を添付して提出し、輸入／輸出荷物通関許可書を取得する必要がある。2007 年 5 月 15 日までは、肥料の輸出には公定強制検査を受ける必要がなかったが、化学肥料の輸出を制限するため、輸出関税を設定するほか、公定強制検査項目にも追加した。この公定強制検査の免除を受け、上記商品の輸出にかかる時間と費用が軽減されることになる。